

時間は流れ 早いもので あれからもう二年が経ちました。ですが、あのカメラ あの日本に来て初めて拾ったカメラは、今でもずっと大切に大切に保管しています。(道具のカメラを出す) これは思いでというより証拠です。これは経済大国、電気大国、お金持ちと呼ばれる日本では、人間以外の生活用品をまだ使えるのに新品のままでゴミとして捨てられているという証拠です。電気製品はおろか、食糧さえなく苦しんでいる国の人々の苦痛を知らずにほしいままにして好きな物さえ手に入ればよしとする日本人は科学成分が含まれるゴミを捨てたあげくに環境破壊をしてしまうばかりではなく、それは自然循環により人間の口に入ってしまう、これは一種の罪ではないでしょうか。

若い皆さん 真剣に考えてください。我々の共存している地球のこと。会ったことのない遠い国の貧しい人たちの暮らし。このままの状態を続けて本当に良いのでしょうか？中国も現在急速に経済発展しているといわれていますが、本当に豊かになるというのはどういうことなのでしょう。今、私はみんなの手で貧富の差がない新しい世界、美しい地球を作れますよう、ここから祈っています。そして、自分にできることを考えなければならないと思っています。

ご静聴ありがとうございました。

公開講座「言語」2004 プログラム 後期

愛知大学言語学談話会主催・
愛知大学語学教育研究室共催

場所：愛知大学車道校舎 461-8641 名古屋市東区筒井 2-10-31 TEL: 052-937-8111 (地下鉄桜通線「車道」下車, 1 番出口より徒歩 1 分)

時間：14:30 ~ 16:30

聴講無料

2004年

(6) 9月18日 (土)

「手から口へ M. コーパリスの言語起源論を中心に」
伊藤 忠夫 (中京大学教養部教授)

(7) 10月2日 (土)

「記号と意味 形式科学の視点から」
河田 賢二 (愛知大学経営学部助教授)

(8) 11月6日 (土)

「初級・中級のための発信型学習英和辞典とコーパス」
塚本 倫久 (愛知大学国際コミュニケーション学部助教授)

(9) 12月4日 (土) (2 講義開講)

「アメリカ人が経験する日本と日本語」
塚本 鋭司 (愛知大学国際コミュニケーション学部助教授)

「英語のなかの日本語」

早川 勇 (愛知大学経済学部教授)

2005年

(10) 1月8日 (土) (2 講義開講)

「韓国の現代作家李外秀の小説における表現について」
田川 光照 (愛知大学経営学部教授)

「なぜ韓国のキリスト教は成功したのか」

常石 希望 (愛知大学法学部教授)

編集後記

『語研ニュース』第11号は外国語コンテスト英語部門の入賞作品を掲載したため、いつもより頁数が多くなった。今回のコンテストでは複数部門で上位入賞を果たす学生が目立ち、白鷺さんは英語とフランス語の二部門で、木村恵さんは英語、ドイツ語、中国語、韓国・朝鮮語の四部門でそれぞれ入賞している。

昨年の今頃の『語研ニュース』の編集後記にも書いたことを、重要なのでもう一度くり返す。夏休みに入ると、約2カ月の間、外国語から遠ざかった生活をする学生が多い。せっかくここまで習得した語学力を低下させるのは勿体ないので、せめてインプット(リーディングとリスニング)はなるべく毎日続けよう。語学は学力や才能ではなく、単に持続力である。

S.A.